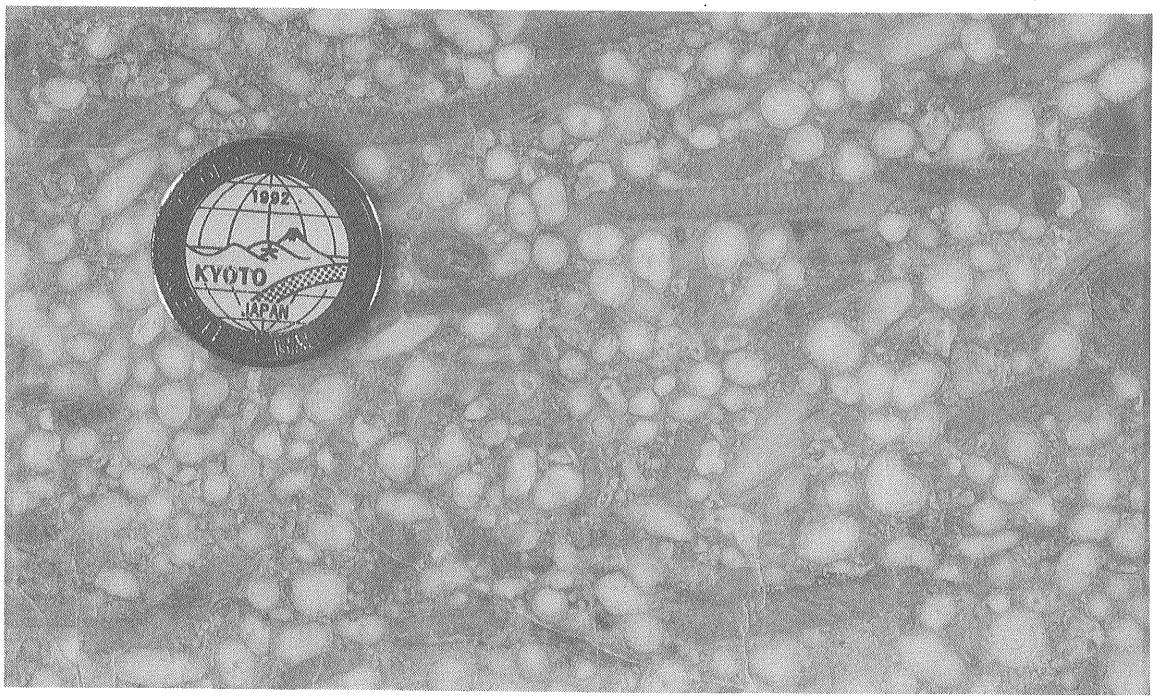
地質ニュース456号，71頁，1992年8月
Chishitsu News no. 456, p. 71, August, 1992

秋吉石灰岩とIGC文鎮

秋吉石灰岩層群は，西南日本山口県中央部に東西約17 km 南北約7.5 km の日本最大の石灰岩台地を形成し，典型的なカルスト地形や鍾乳洞が発達している．ここは，日本の地質学の黎明期に，フズリナ層序から大規模な逆転構造が存在することが明らかになった(OZAWA, 1923)歴史的な地である．その後多くの論争が繰り返されたが現在では，石炭紀からペルム紀にかけて南方洋上の海底火山上に生物礁複合体として生成された石灰岩がプレート運動で北上し，西南日本大陸塊と衝突して石灰岩塊の北半が逆転した構造を造ったと考えられている．この高純度の塊状石灰岩からは，保存の良い多くのフズリナ類，ルゴサ・サンゴ類，腕足類，石灰藻類，コケ虫類等の化石を産するので有名である．

このIGC文鎮は山口県美祢市入見台，小野田セメント㈱重安鉱山東切羽250 mL産のもので，含まれている主要なフズリナ化石はペルム紀下部のシュードフズリナ(鑑定者：太田正道)である．

1992年8月　第29回万国地質学会議　組織委員会
(添付された日本語解説文より)

この文鎮は5.9×8.8×1.6 cm, 220 g．デザインと下の写真は地質調査所前所長の石原舜三氏による．